

韓国人父母の教育戦略 —日本の韓国学校の場合—

朴 貞玉

学位取得年月：平成 20 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】韓国人父母、教育戦略、保護者、教育方針、子どもの教育
【要旨】

近年、グローバル化の進行により日本国内においても就労や定住のために来日する韓国人は数多く、中でも子どもと一緒に来日しているほとんどの韓国人父母たちの中心的関心事は「子供の教育をどうするのか」という問題である。そこで修士論文では、2007 年 6 月現在、日本の韓国学校に子どもを通わせる韓国人父母 369 名に焦点を当て、日本で子どもを育てながら子どもに対する教育をどのようにしていくかという戦略に着目し、その現状と課題を明らかにすることを目的とした。その目的を踏まえ、子どもを韓国学校に通わせる父母に、子どもに対する理想的な子供像と言語教育観の概念構造を明らかにし、理想的な子供像と言語教育観に影響を及ぼす要因とする父母の日本滞在歴と子供の学校での学年との関連及び理想的な子供像と言語教育観の両者の関連を、質問紙調査法を用い統計パッケージ SPSS を用いて分析を行った。主な結果として、日本の韓国学校に子供を通わせる長期型の父母たちは、二文化の併存とバイリンガルを重視することが検討された。

(ばく ちよんおく)

文字チャットが日本語学習者の 音声会話に及ぼす学習効果 —終助詞「ね」に注目して—

船戸 はるな

学位取得年月：平成 20 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】文字チャット、終助詞、音声チャット
【要旨】

本研究では、日本語母語話者との文字チャットの継続が JFL 環境にある日本語学習者の音声会話に学習効果を及ぼすかどうかを、終助詞「ね」に注目して分析を行った。その結果、調査開始初期には、学習者は「ね」の使用頻度が母語話者に比べ低く、また自分の領域に属する情報について述べる際に「自己確認」または「文意不明」としての「ね」を多用する傾向が見られた。調査後期には、「ね」の使用頻度の増加、また母語話者の多用する「同意要求」「同意表明」の「ね」を多用するようになる変化が見られた。同様の変化は音声チャットにおいても見られたが、その程度は文字チャットよりも小さく、文字チャットで得た効果が音声チャットに現れるまでにはまだ段階があることが推測される。

(ふなと はるな)